

【取組内容①】 「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実

校内授業研究会テーマ：「教科の楽しさやよさを実感して、粘り強く考える生徒の育成」

個別最適な学びと協働的な学びを充実させる端末活用について、校内授業研究会を通して先生方が意見を交わした。生徒自身が端末に記録した振り返りを活用する取組や、生徒が主体となって進める学習形態を積極的に取り入れた。

技名	難度	確認する技能	チェック	評価
前転	A	手で体を支えている 頭がマットについていない 手をマットに触れずに立ち上がる	0 0 0	◎
開脚前転	B	手で体を支えている 足が伸びている スムーズな回転ができています	0 0 0	◎
伸脚前転	D	膝が伸びている 膝が伸びのまま立ち上がる 立ち上がる時に、脚が動かない	0 0 0	△
後転	A	手で体を支えている 膝をつかない 脚を動かさない	0 0 0	◎
開脚後転	B	手で体を支えている 脚が伸びている スムーズな回転ができています	0 0 0	◎

**チェックの仕方**

- ・3回試技して、2回成功して、はじめて『できる』と認定してよい。
- ・『できていない』と判断するためには、3つのチェック項目が同時に『できる』となる。
- ※3回合わせてチェック項目ができて、『できていない』とはならない。
- ・安全にできていないと判断した場合は、試技を中止させること。
- ・できたらチェックを○にする。
- ・評価は、きれいでできていれば◎、できていたら○、なんとかできていたら△

授業でわかったこと気づいたことを下の枠に入力しよう

小学校の時よりも後転ができるようになっていました。  
理由はペアを組んでペアの人に横から見てもらえるので、  
「△が◎に」なっていました。カンを動かすように、



理科の授業では「高い音や低い音を出すためにはどうすればいいのかわかるか」、端末を使いながら一人でじっくりと考える生徒がいたり、端末で情報共有をしながら友達と一緒に考える生徒がいたりした。

研修では、これまで美術等で行われてきた学習形態は、複線型の授業モデルになるとのヒントを得た。



校内に掲示されていた生徒の美術作品

保健体育の授業では、マット運動で行った技の難易度や、ポイントとなる技能を生徒自身が確認したことで、自らの学習活動をより具体的に振り返る姿が見られた。

【先生方の学び】

「GIGA端末を使った授業は、先生主導ではなく、子どもが主役となって授業をしていくことが必要だと感じた。先生はあくまで補佐として役割としてサポートし、子どもたちが自由に表現できるようにしていくことが必要だと感じた。」（高橋純教授のご講演を聞いた感想より）

一斉授業の中での端末活用をイメージしていた先生方が、校内授業研究会でお互いの授業を見せ合いながら、個別最適な学びと協働的な学びを充実させる端末活用について意見を交わしていったことで、少しずつ生徒主体の端末活用、授業形態が行われるようになっていった。